

令和2年度

文部科学省事業

共に学び、生きる共生社会 コンファレンス

IN

関東甲信越ブロック

～地域で共生の生涯学習を展開するために～

2021/1/17(日)10～16時

<WEB会議システム「ZOOM」によるオンライン開催>

開催趣旨

障害者権利条約では、障害者の教育に関する権利を機会の均等を基礎として実現する観点から、障害者を包容する生涯学習の環境を確保することを締約国に求めている（24条）。これを踏まえ、誰もが相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて、障害の有無等にかかわらず学びあえる場が広く整備されていく必要がある。こうした問題意識に基づき、本コンファレンスでは、多様な人々が集い、対話・交流するシンポジウム及び分科会等を通じて、以下の目的の達成を目指す。

第一に、障害者の参加を妨げている社会的障壁や、その解消のための方法について理解を深める（障害理解の促進）。第二に、障害の有無にかかわらず必要な学びが得られる環境を整えるための工夫や考え方の共有を図る（障害者の学びの場の担い手の育成）。第三に、障害者本人の経験やニーズが源泉となるような新しい学びあいの場と豊かな関係性を地域社会に創り出す取組を推進する（障害者の生涯にわたる学びの場の拡大）。

参加対象

障害者本人、学びの支援者・関係者、障害者の学びに関心のある人等、都道府県・市町村職員（障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等）、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障害者の学習支援実践者（NPO等）、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等

<当コンファレンスサイト URL><https://www.kyoseishakai-conference.com/2020>

お申込みは上記サイトの関東甲信越ブロック、特設サイトからお願いいたします。

「共生社会コンファレンス 2020」で検索



※申込み締切：1月15日（金）18時

<主催>一般財団法人福祉教育支援協会、文部科学省

<協力>特別区社会教育主事会、全国喫茶コーナー交流会、国分寺市教育委員会

<お問合せ先>一般財団法人福祉教育支援協会

メール：conf@wess.or.jp（コンファレンス<関東甲信越ブロック>専用） / URL：<http://wess.or.jp/>

プログラム

■ 10:00–10:20

オープニング・主催者あいさつ<障害者の生涯学習の推進に向けて>

■ 10:20–11:20

基調講演<君と同じ街に生きてーインクルーシブな学びへ>

講演者: 小林繁氏 (明治大学 教授)

■ 11:30–12:10

レクチャー<コロナ禍におけるオンラインの学びの可能性
ーコロナ禍での障がい者のリモートの「学び」実践と工夫>

講師: 引地達也氏 (みんなの大学校 学長)

■ 12:10–12:30

各分科会紹介<各コーディネーターが説明>

■ 13:30–15:30

分科会



※昨年度の当コンファレンスの開催風景

1. 障害者青年学級の学び～東京都特別区の事例から～

東京都特別区では昭和30年代後半から、学校を卒業した障害者の学びの場として、障害者青年学級が開設されてきました。本分科会では、目黒区と渋谷区の事例報告から、障害者青年学級における知的障害者への学習支援について学び、これから障害者の学びの場をつくりたいと考えている方への一助とします。

●コーディネーター: 齋藤尚久氏 (杉並区教育委員会事務局 生涯学習推進課 社会教育主事)

2. 知的制約のある人々の生涯学習支援に果たす大学の役割

これまでの大学における障害者生涯学習支援の歴史を振り返り、そこに流れていた思想とノウハウを明らかにします。現時点での大学における取組の現状を分析し今後の発展に生かせる諸条件を探ります。この上で、知的制約のある人々の学習ニーズにもとづく生涯学習支援に果たす大学の役割のいくつかを提案したいと思います。

●コーディネーター: 平井威氏 (明星大学 客員教授)

3. カフェを介した「共生の学び」の実践

埼玉県川口市のめだかふぁみりいは、1983年から、スポーツクラブの活動からスタート。その後、作業所「すいーつばたけ」を立ち上げ、おもちゃ図書館やカルチャースクールなど、地域の人も参加できる余暇活動を展開してきました。東京都立志村学園のCafé de NOVICE。生徒が実習として取り組むこのお店は、地域の市民講師の指導の下、地域に開かれたお店として、様々な取り組みを展開しています。二つの事例から地域の中で、障害者も他の人にとっても心地よい社会のあり方について学びます。

●コーディネーター: 兼松忠雄氏 (明治大学 講師・全国喫茶コーナー交流会 事務局長)

4. 当事者の言葉からデザインする新しい学びー「学ぶ」を体感する学生シンポジウム

18歳以降の青年期の学びを中心に各地で展開する「通所」「通学」型の学びを行う学生らが日々の学びや、その学びを選ぶまでの過程を紹介しながら、学びに対する思いを発言し、これからの考える当事者中心の分科会。当事者の言葉から、学びの意味と未来の学びを考えていきます。

●コーディネーター: 引地達也氏 (みんなの大学校 学長)

■ 15:30–16:00

クロージングセッション

総括: 小林繁氏 (明治大学 教授)